



2次医療圏における精神保健医療の現状

目次

- 1 2次医療圏における病床の状況について
- 2 2次医療圏における精神病床を有する病院の医師の状況について
- 3 2次医療圏における医療資源の状況について
- 4 2次医療圏における障害福祉資源（精神障害に対応）の状況について
- 5 2次医療圏の患者の詳細分析

9月6日実施の精神保健福祉審議会において報告した内容

9月6日実施の精神保健福祉審議会では、

- ・ 精神疾患を有する患者の状況
- ・ 精神病床の推移
- ・ 入院形態別の状況
- ・ 在院日数・退院率

について、主に本県と全国の状況を比較したデータを報告した。

9月6日実施の精神保健福祉審議会においての要望

精神保健福祉審議会において、委員から以下の要望が出された。

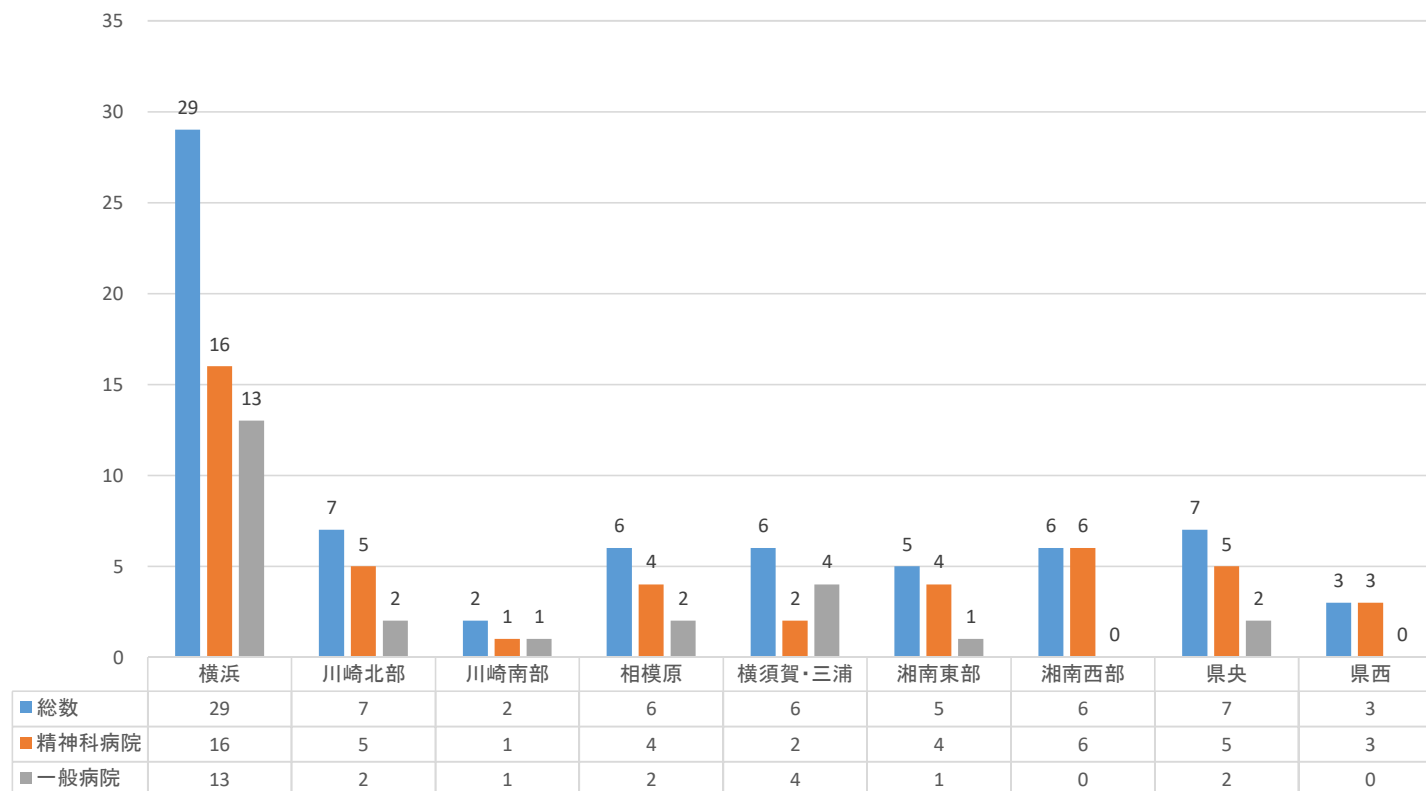
- ・ 2次医療圏での患者の状況、地域において患者がかかりたい医療が提供できているかの状況を把握できるもの
- ・ 2次医療圏における医師の確保状況、医師の数、地域における医師の状況
- ・ 地域における病院や診療所の割合

今後の精神医療を考えていく際に、各地域における情報の把握の必要性があることから、2次医療圏における情報について令和2年度630調査、地域精神保健医療福祉社会資源分析データベース（RemRHAD）、日本医師会 地域医療情報システムの情報を基に整理した。

※なお、この資料における「一般病院」とは、精神科以外の診療科を標榜する病院のうち、精神病床を有する病院のことをいいます。

1 2次医療圏における病床の状況について

(1) 地域ごとの病院数(総数・精神科病院・一般病院)



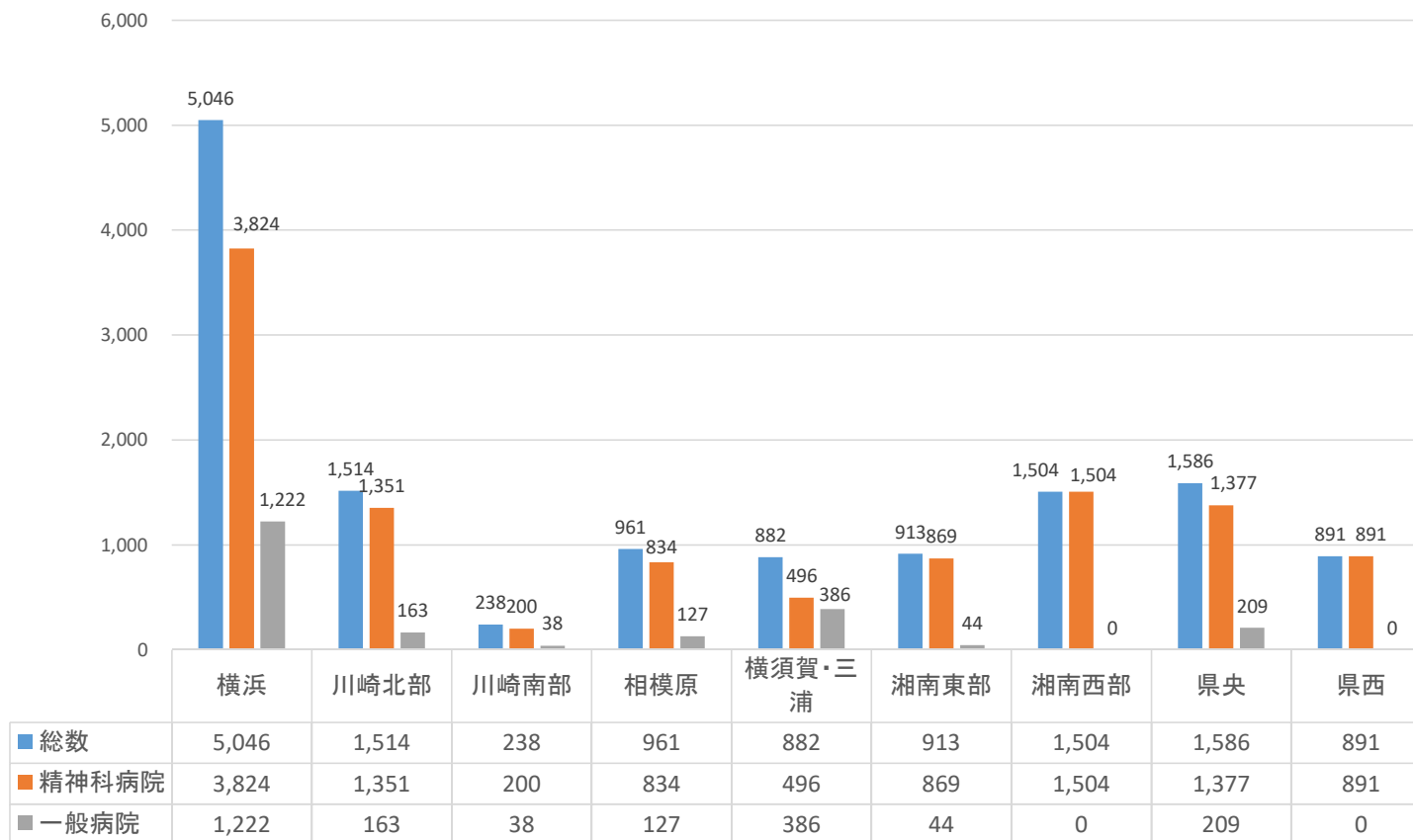
・地域ごとの精神病床を有する病院数は、精神科病院・一般病院ともに横浜が突出している。

・川崎南部、県西の病院数がすくない。

・湘南西部・県西には精神病床を有する一般病院がない。

1 2次医療圏における病床の状況について

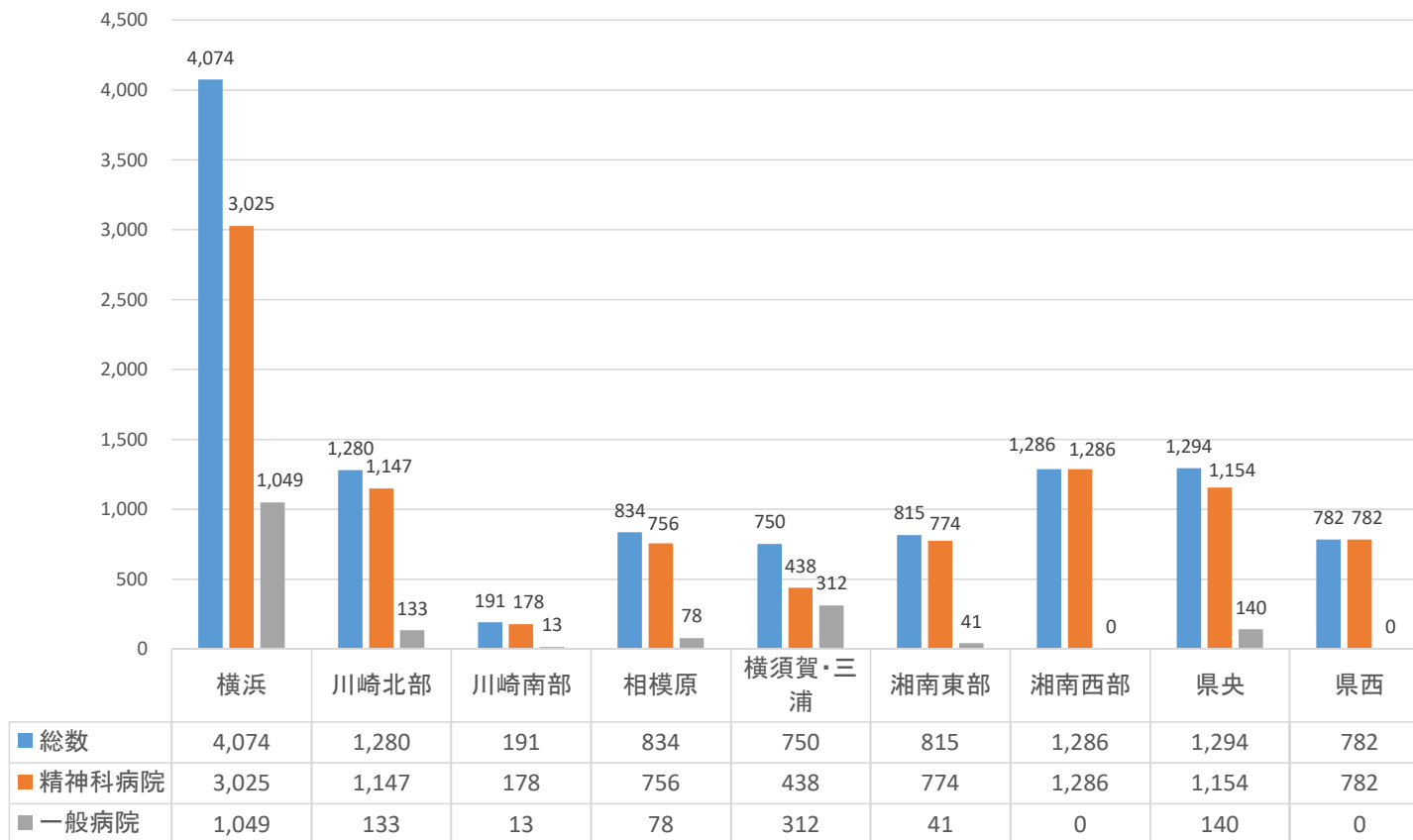
(2) 地域ごとの精神病床数(許可ベース)(総数・精神科病院・一般病院)



- ・地域ごとの病床数も精神科病院・一般病院ともに横浜が突出している。
- ・川崎南部は前述の病院数と同様、他の地域に比べ、非常に少ない。
- ・川崎北部・湘南西部・県央・県西は、病院数では横浜を除く他の地域とほぼ同数だが、病床数では他の地域より多く、1病院あたりの病床規模が大きいことが窺える

1 2次医療圏における病床の状況について

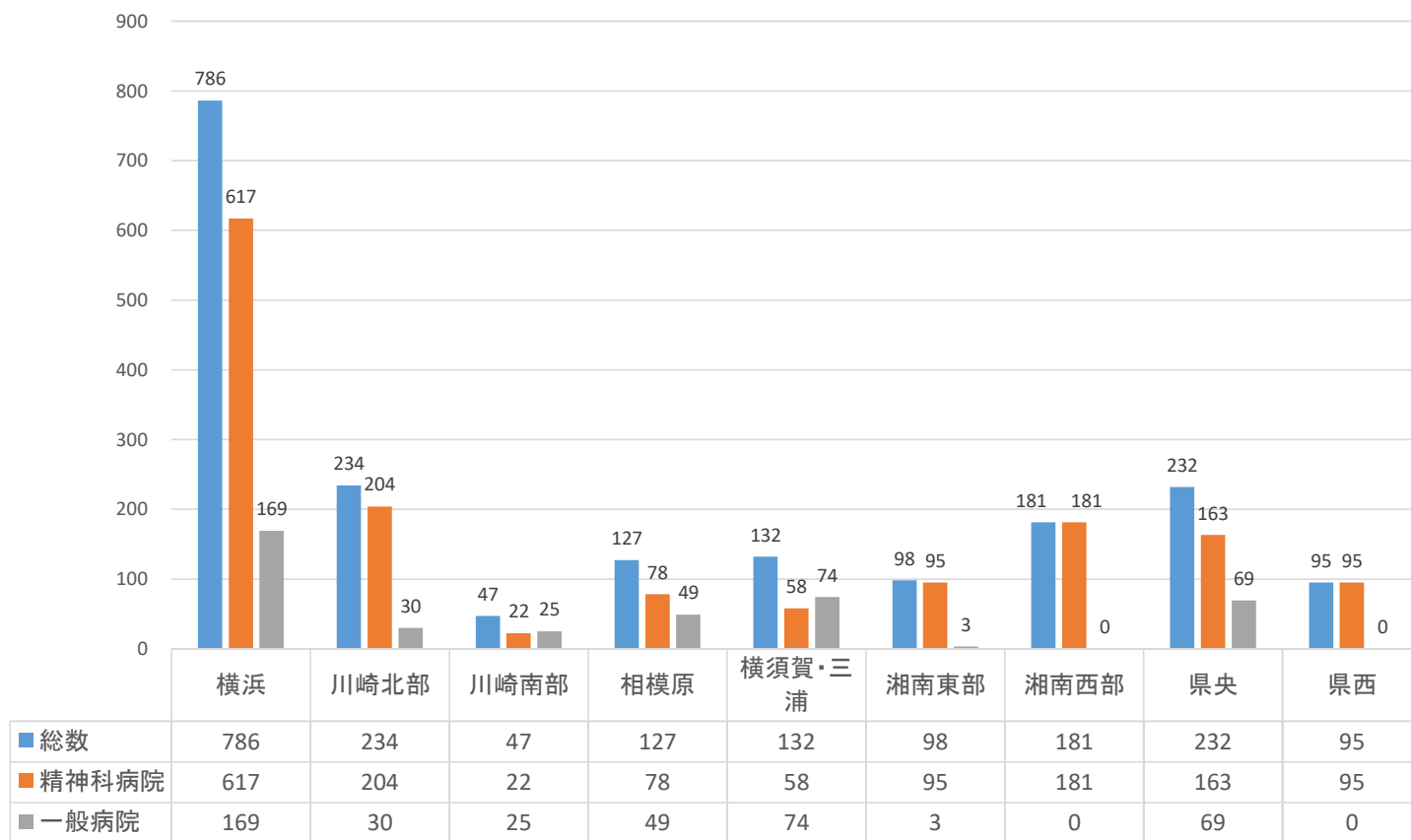
(3) 地域ごとの在院患者数(総数・精神科病院・一般病院)



・在院患者数は、精神病床数の傾向とほぼ同様の状況となっている。

1 2次医療圏における病床の状況について

(4) 地域ごとの空床数(総数・精神科病院・一般病院)

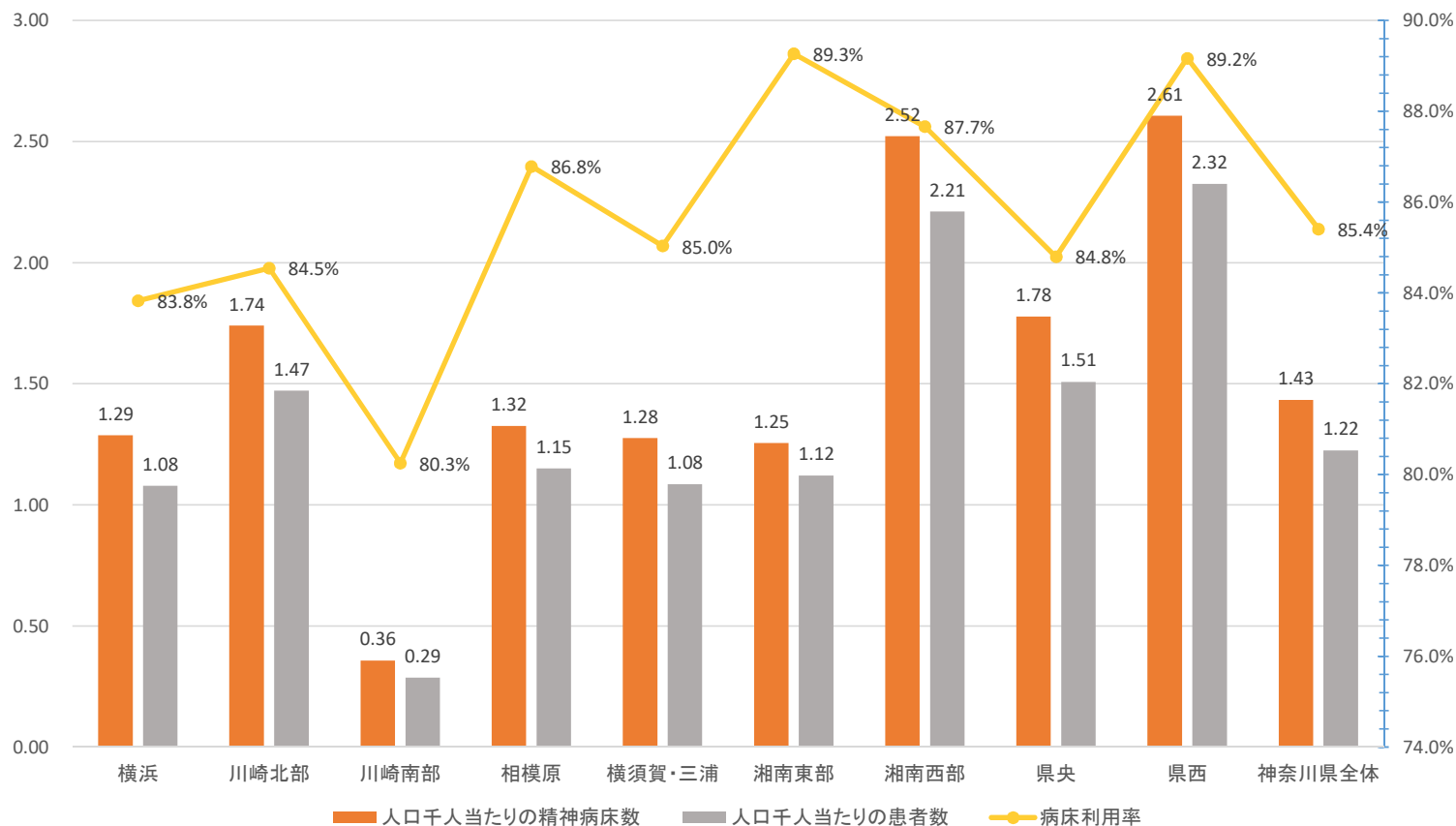


・空床数は、病床数の状況と比べて、川崎南部の精神科病院、相模原の精神科病院、湘南東部の一般病院の空床数が少なくなっている。

・横浜の精神科病院の空床数は他の医療圏域と比べて多くなっている。

1 2次医療圏における病床の状況について

(5) 地域ごとの人口千人あたりの病床数及び在院患者数並びに病床利用率【総数】



・人口千人あたりの病床数で見ると、病院数や病床数で突出していた横浜は中位となる。

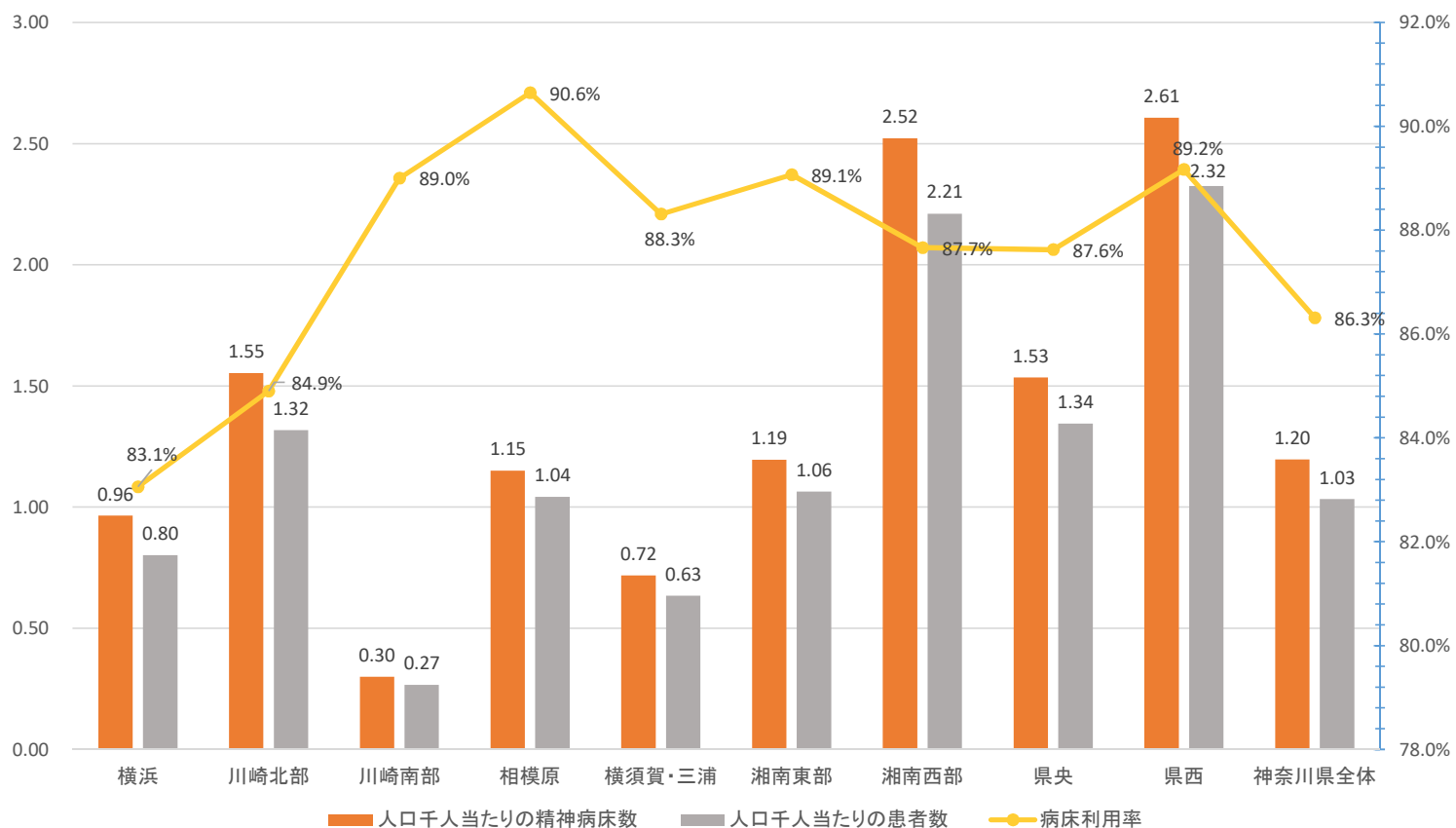
・湘南西部・県西は千人あたりの病床数は2.5床を超えており、病床利用率も9割近くで高い。

・川崎南部は人口千人あたりの病床においても少ないが、病床利用率も他地域より低い。

・千人あたりの患者数は、千人あたりの病床数とほぼ比例している。

1 2次医療圏における病床の状況について

(6) 地域ごとの人口千人あたりの病床数及び在院患者数並びに病床利用率【精神科病院】



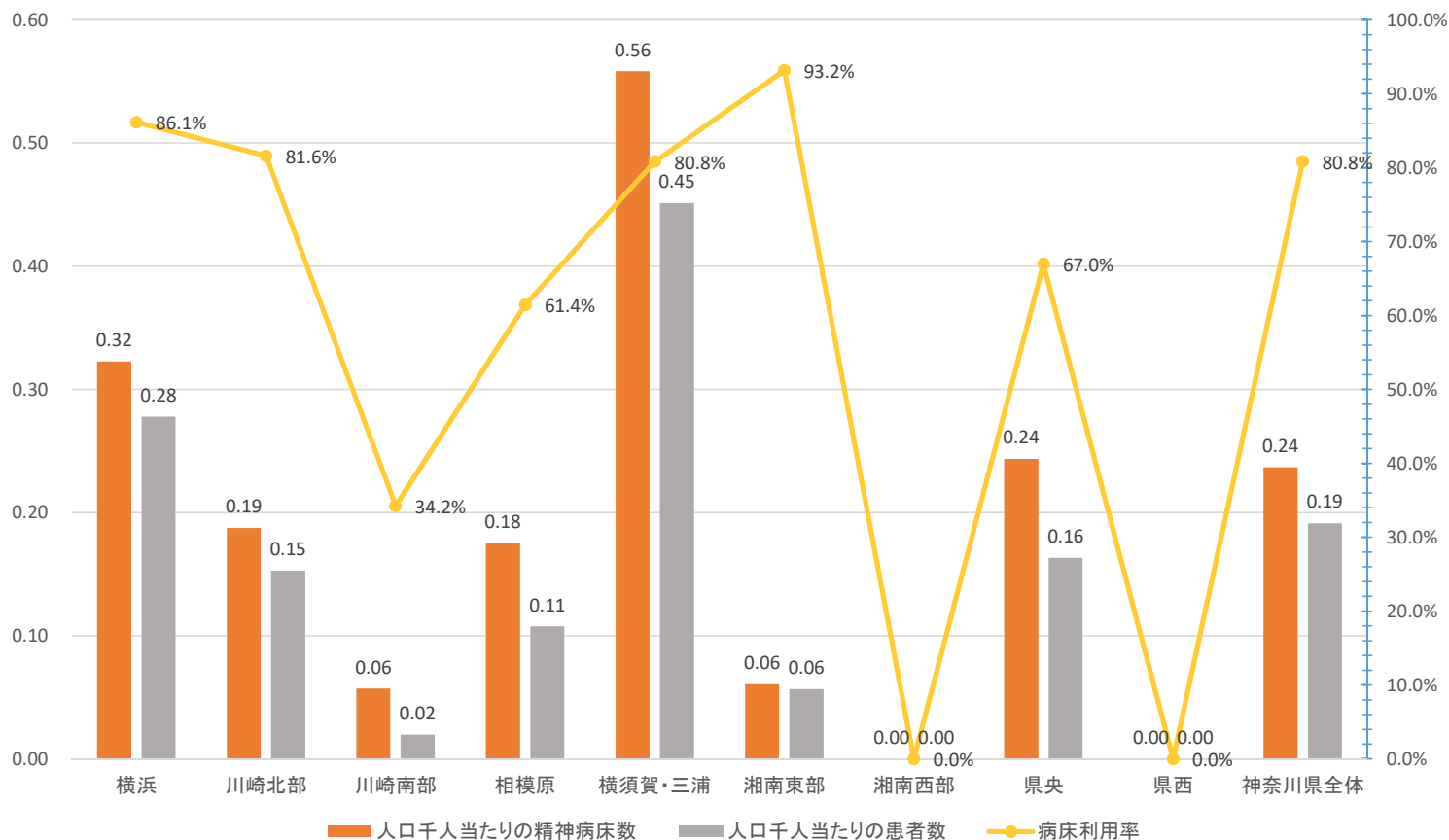
・精神科病院と一般病院の総数では人口千人あたり1床を超えていた横浜、横須賀・三浦は、精神科病院の病床数では人口千人あたり1床を下回っている。

・横浜、川崎北部の病床利用率は、他の地域に比べて低くなっている。

・川崎南部は人口千人あたりの病床は少ないが、病床利用率は9割近くとなっている。

1 2次医療圏における病床の状況について

(7) 地域ごとの人口千人あたりの病床数及び在院患者数並びに病床利用率【一般病院】

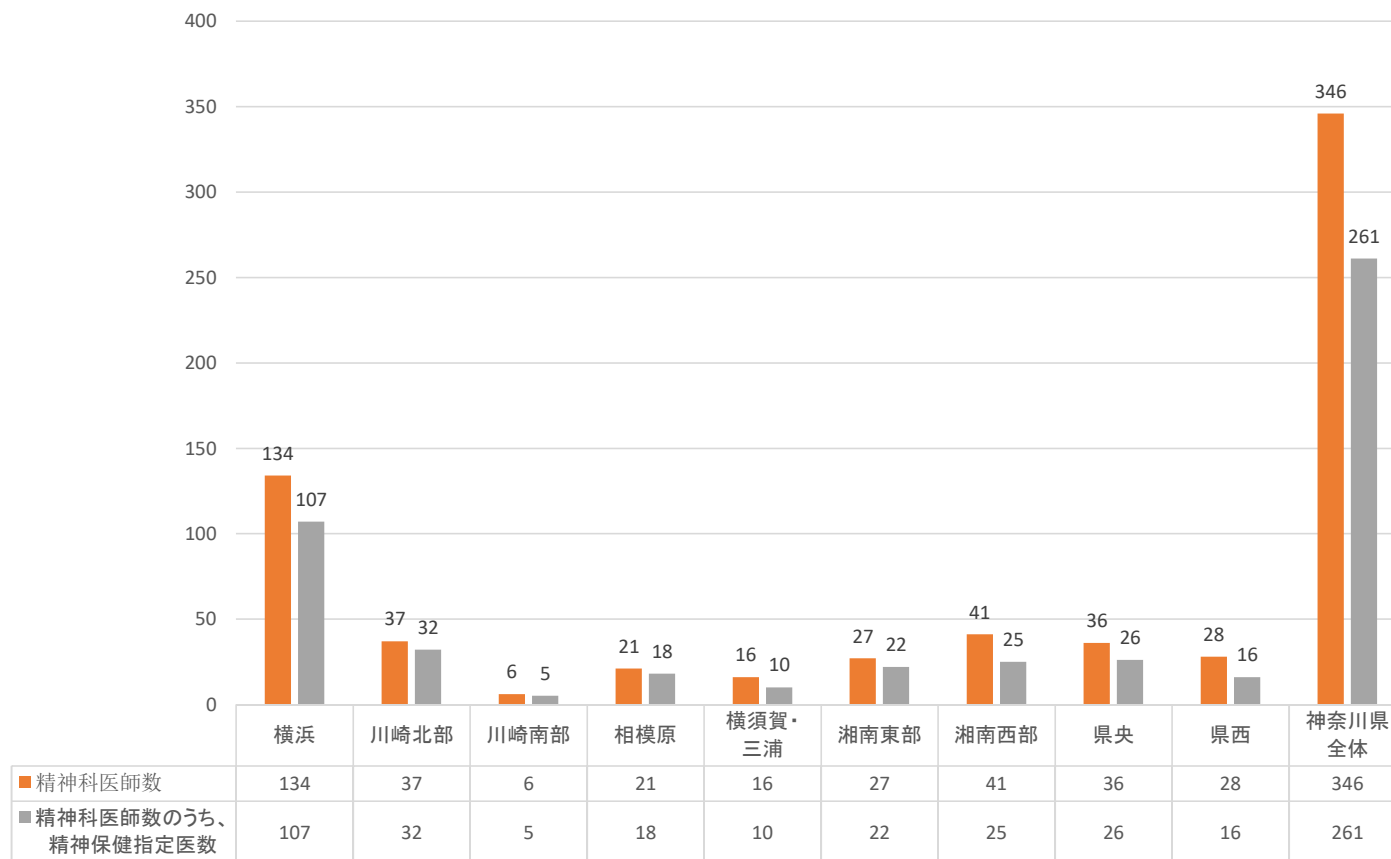


・一般病院の人口千人あたりの病床は横須賀・三浦が最多となっており、次いで横浜、県央、川崎北部の順になっている。

・精神科病院に比べて病床利用率の差が大きい。

2 2次医療圏における精神病床を有する病院の医師等の状況について

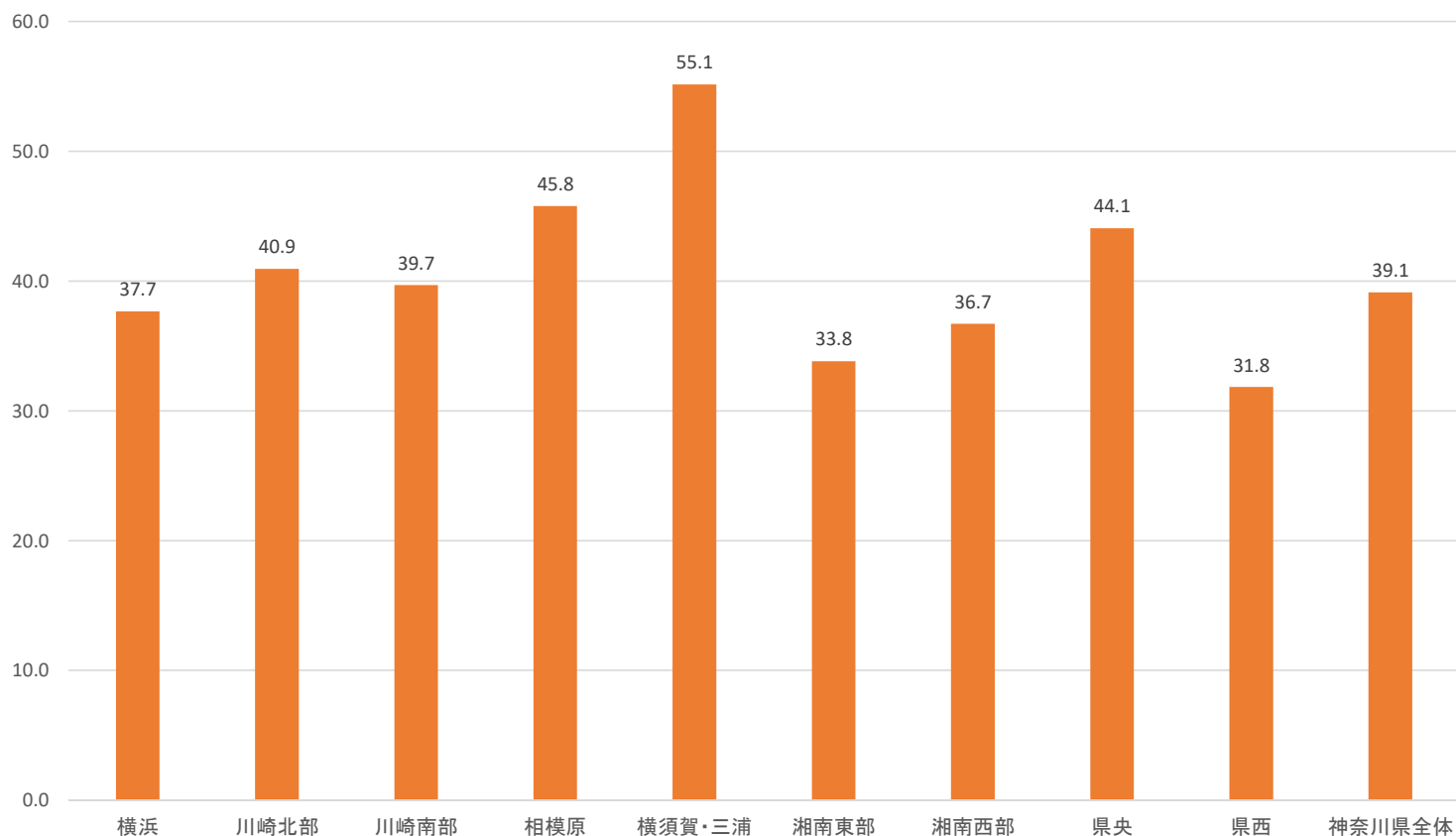
(1) 2次医療圏における精神科医師及び精神保健指定医数



・病院数・病床数の多い横浜の精神科医師数が多くなっている。

2 2次医療圏における精神病床を有する病院の医師等の状況について

(2) 2次医療圏における1名の精神科医師あたりの病床数



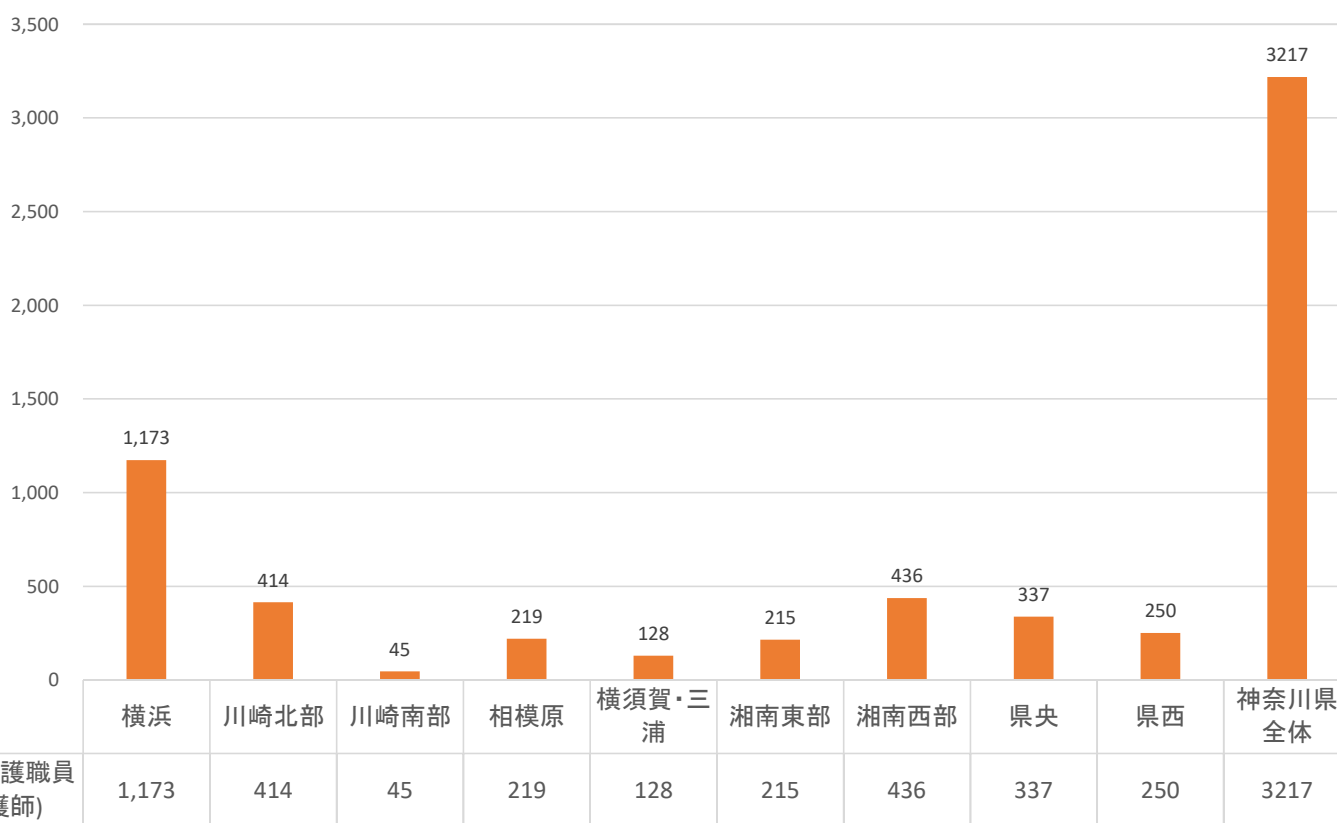
・精神病床数/精神科医師数で、1名の精神科医師あたりの精神病床数を見ると、横須賀・三浦の病床数が多い。

・湘南東部、県西は、1名の精神科医師あたりの精神病床数が少ない。

※常勤・非常勤の区別なく、1名の精神科医師あたりの病床数を見ているため、配置基準とは異なる。

2 2次医療圏における精神病床を有する病院の医師等の状況について

(3) 2次医療圏における精神科看護職員数(看護師・准看護師)

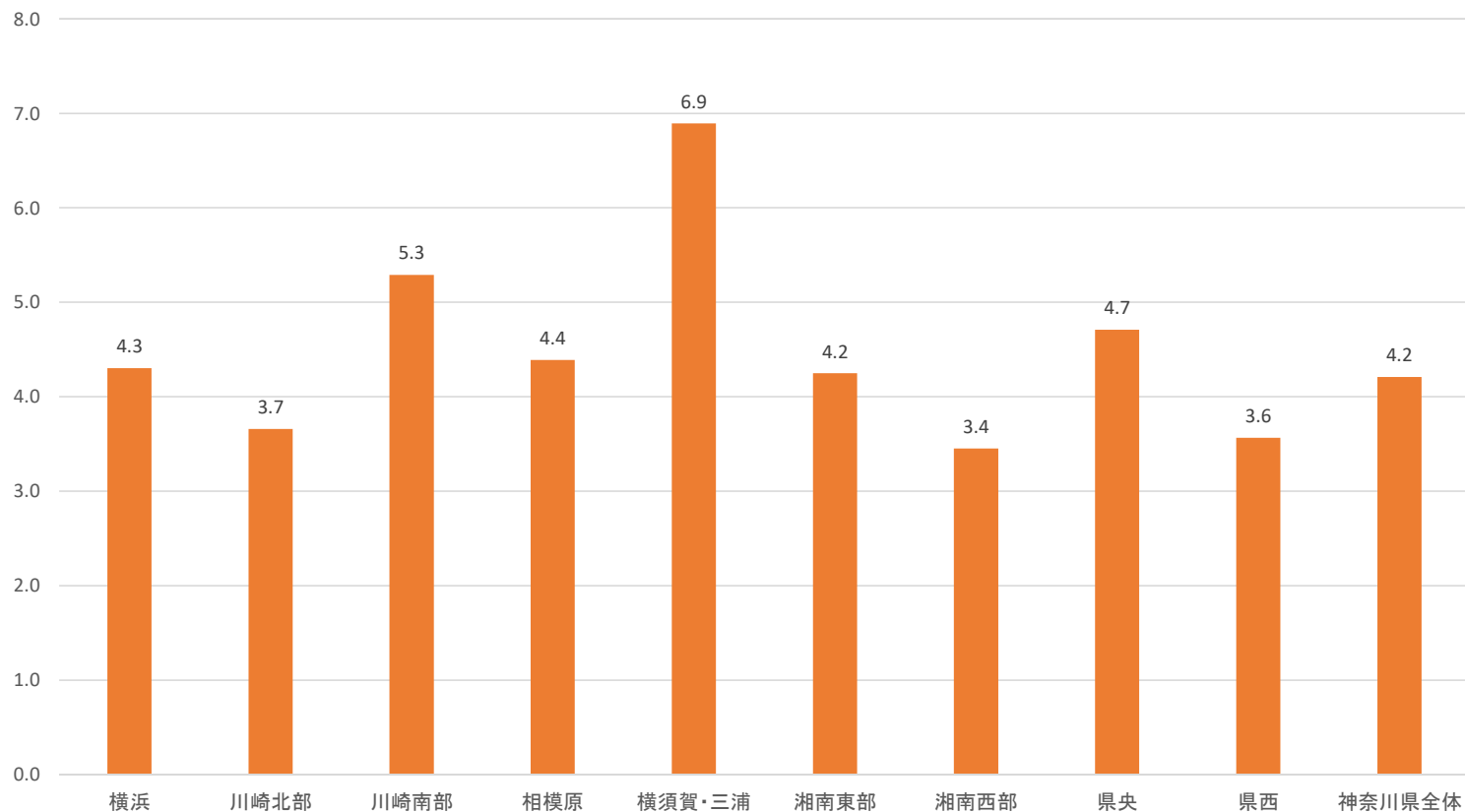


・看護職員数も横浜が最多となっている。

精神科における看護職員
(看護師・准看護師)

2 2次医療圏における精神病床を有する病院の医師等の状況について

(4) 2次医療圏における精神科看護職員数(看護師・准看護師)1名あたりの精神病床数



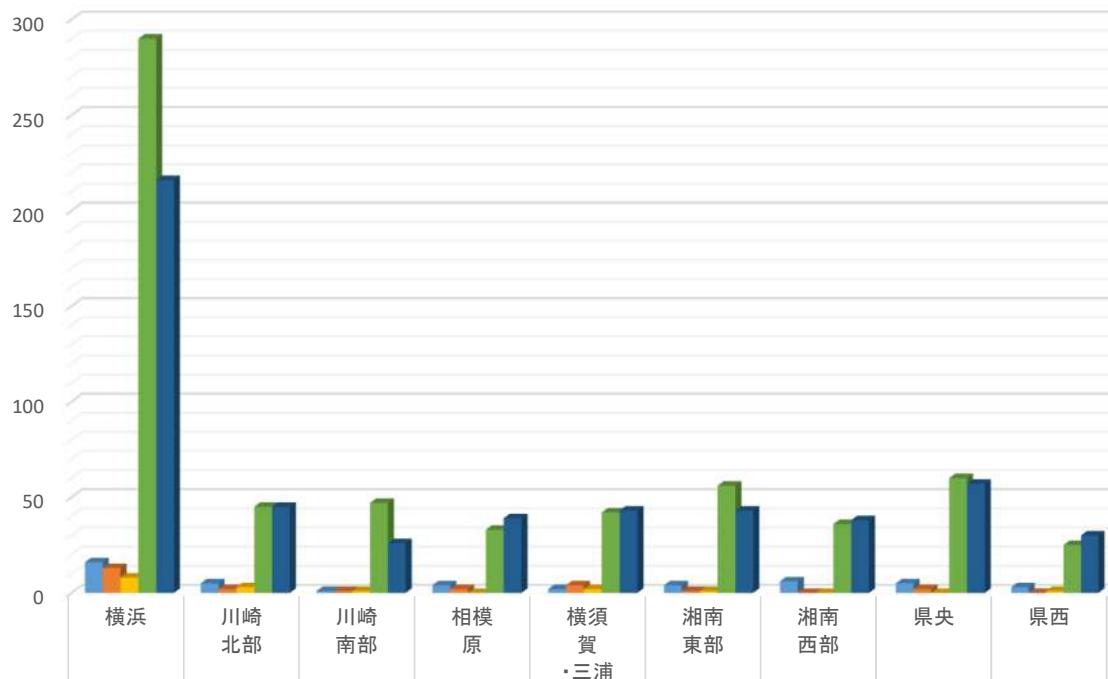
・精神病床数/精神科看護職員数で、看護職員(看護師・准看護師)1名あたりの精神病床数を見ると、横須賀・三浦の病床数が多い。

・湘南西部、県西、川崎北部の看護職員1名あたりの病床数は少ない。

※常勤・非常勤の区別なく、1名の看護職員あたりの病床数を見ているため、配置基準とは異なる。

3 2次医療圏における医療資源の状況について

2次医療圏における医療資源の状況



■精神科病院	16	5	1	4	2	4	6	5	3
■一般病院	13	2	1	2	4	1	0	2	0
■有床診療所のうち精神科を標榜するもの	8	3	1	0	2	1	0	0	1
■無床診療所のうち、精神科を標榜するもの	290	45	47	33	42	56	36	60	25
■訪問看護ステーション数	216	45	26	39	43	43	38	57	30

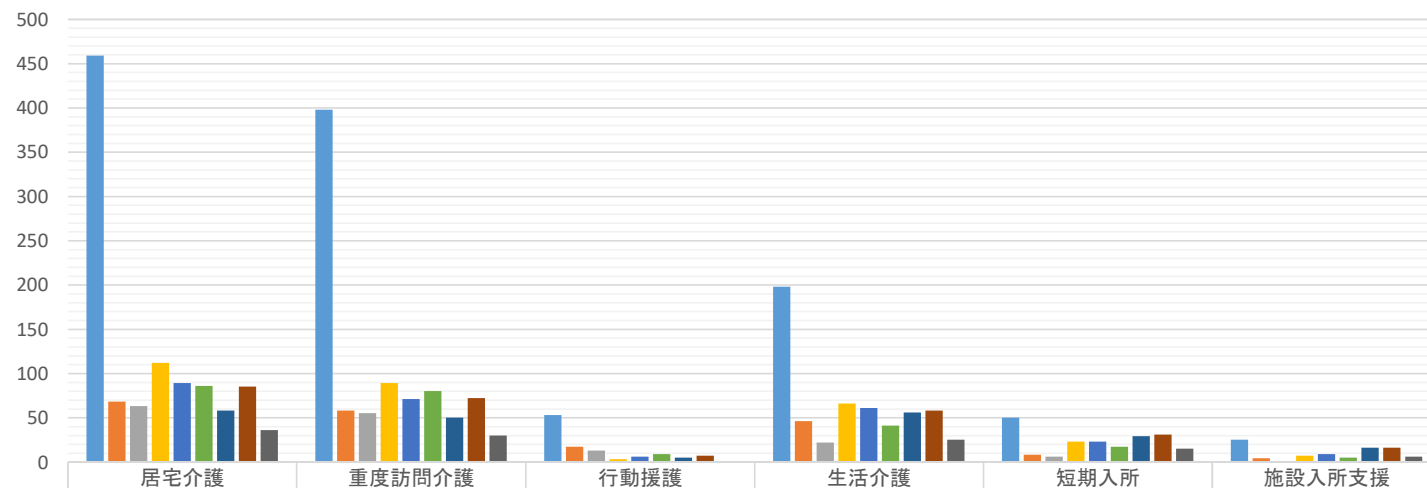
・精神科診療所、訪問看護ステーションは、横浜が突出している。精神科診療所は県内の45%が横浜に集中している。

・川崎南部は病院数は少ないが、診療所は川崎北部と同等となっている。

4 2次医療圏における障害福祉資源の状況について

2次医療圏における障害福祉資源の状況

(1) 介護給付



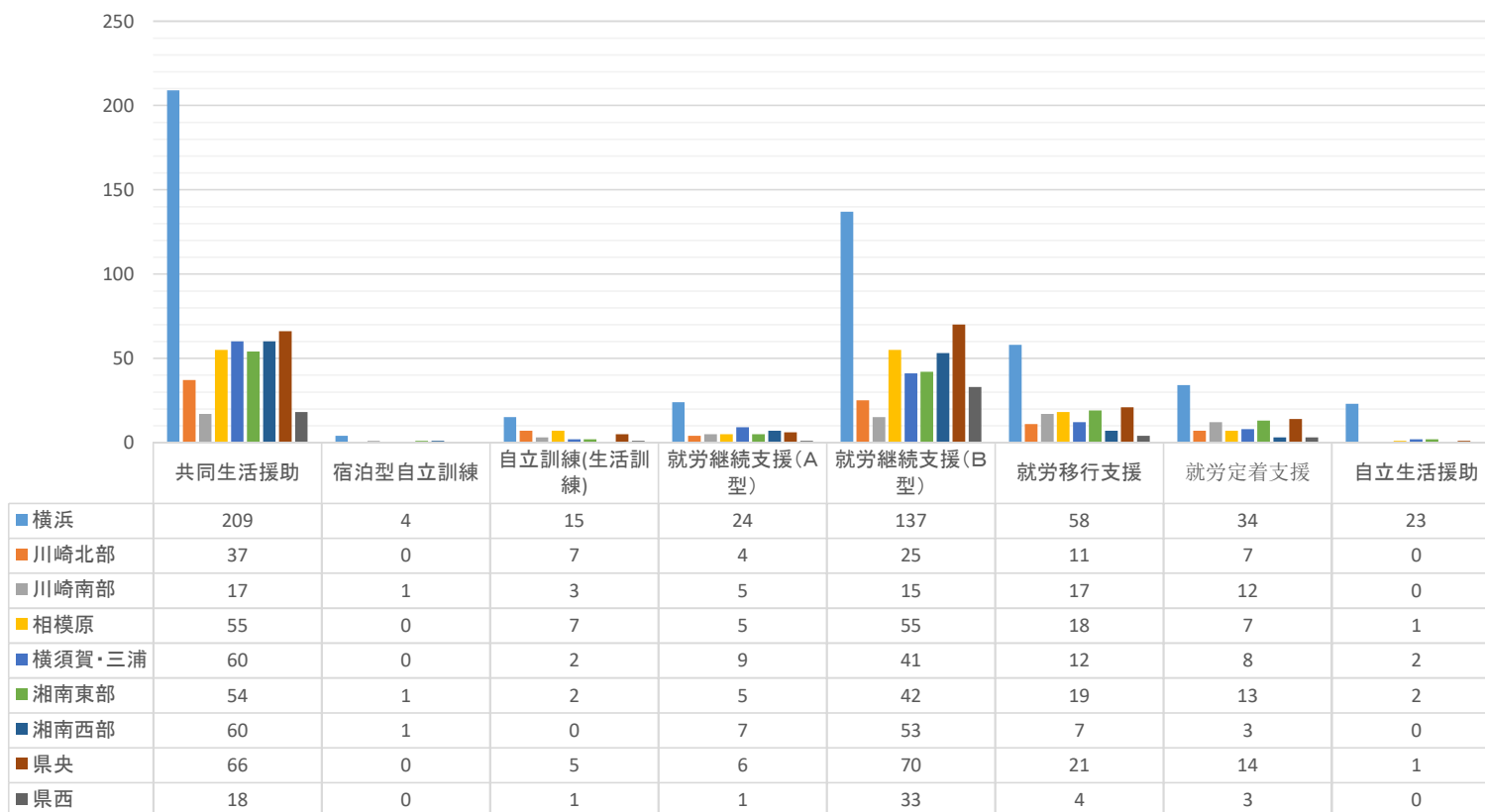
・ホームヘルプサービス、訪問介護サービスは横浜が突出し、次いで川崎、相模原の順に政令市に資源が集中している。

・短期入所は、横浜に次いで県央、湘南西部の順に資源が多い。

4 2次医療圏における障害福祉資源の状況について

2次医療圏における障害福祉資源の状況

(2) 訓練等給付

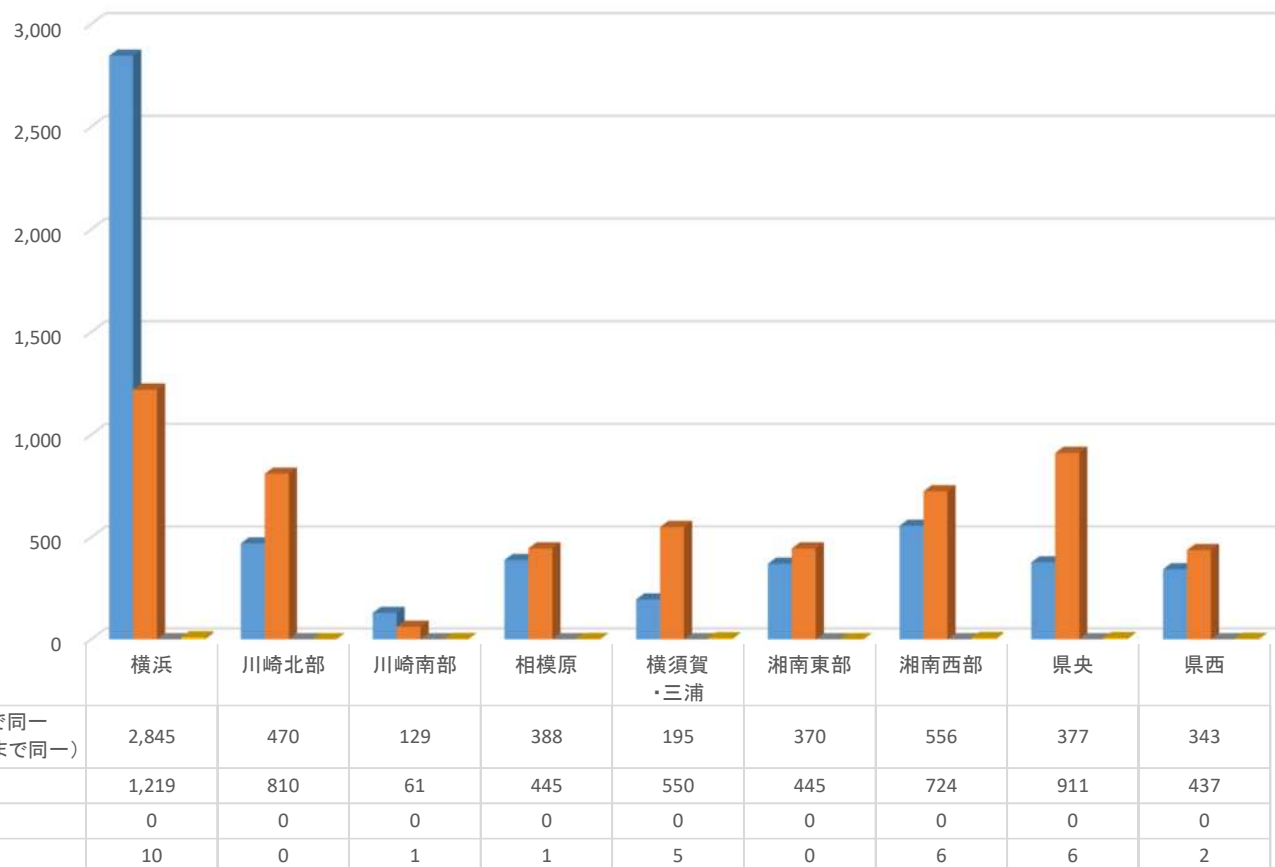


・各障害福祉サービスとも横浜が突出している。

・グループホーム、就労継続、就労移行サービスは、県央の資源数が多い。

5 2次医療圏における患者の詳細分析

(1) 病院所在地と患者住所地の状況

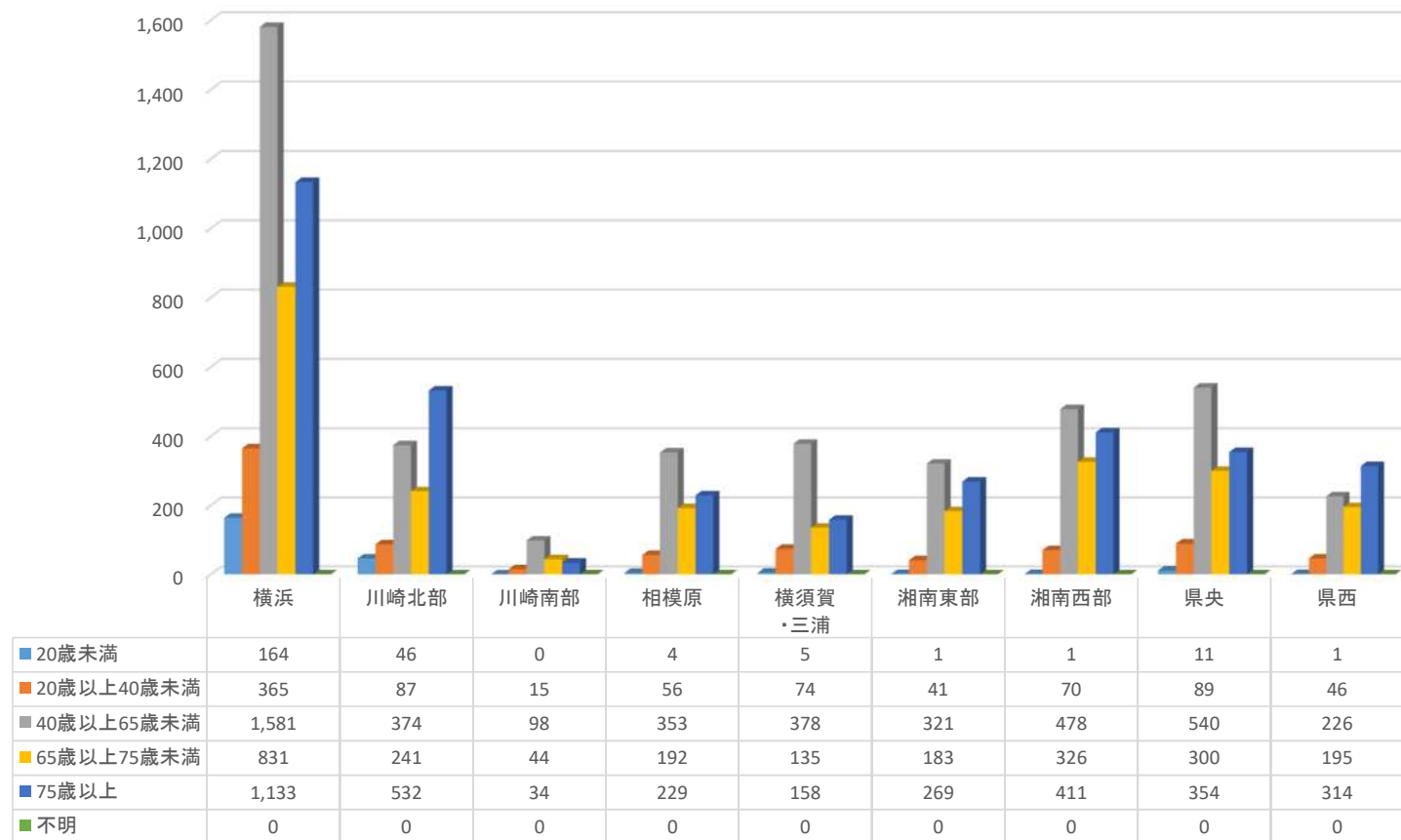


・横浜及び川崎南部の病院は、令和2年6月30日時点で入院患者の約7割が市内の患者となっている。

・その他の圏域は、圏域内に住所がある患者よりも圏域外に住所がある患者が多く、特に川崎北部、横須賀・三浦、県央は顕著である。

5 2次医療圏における患者の詳細分析

(2) 入院患者の年代別の状況

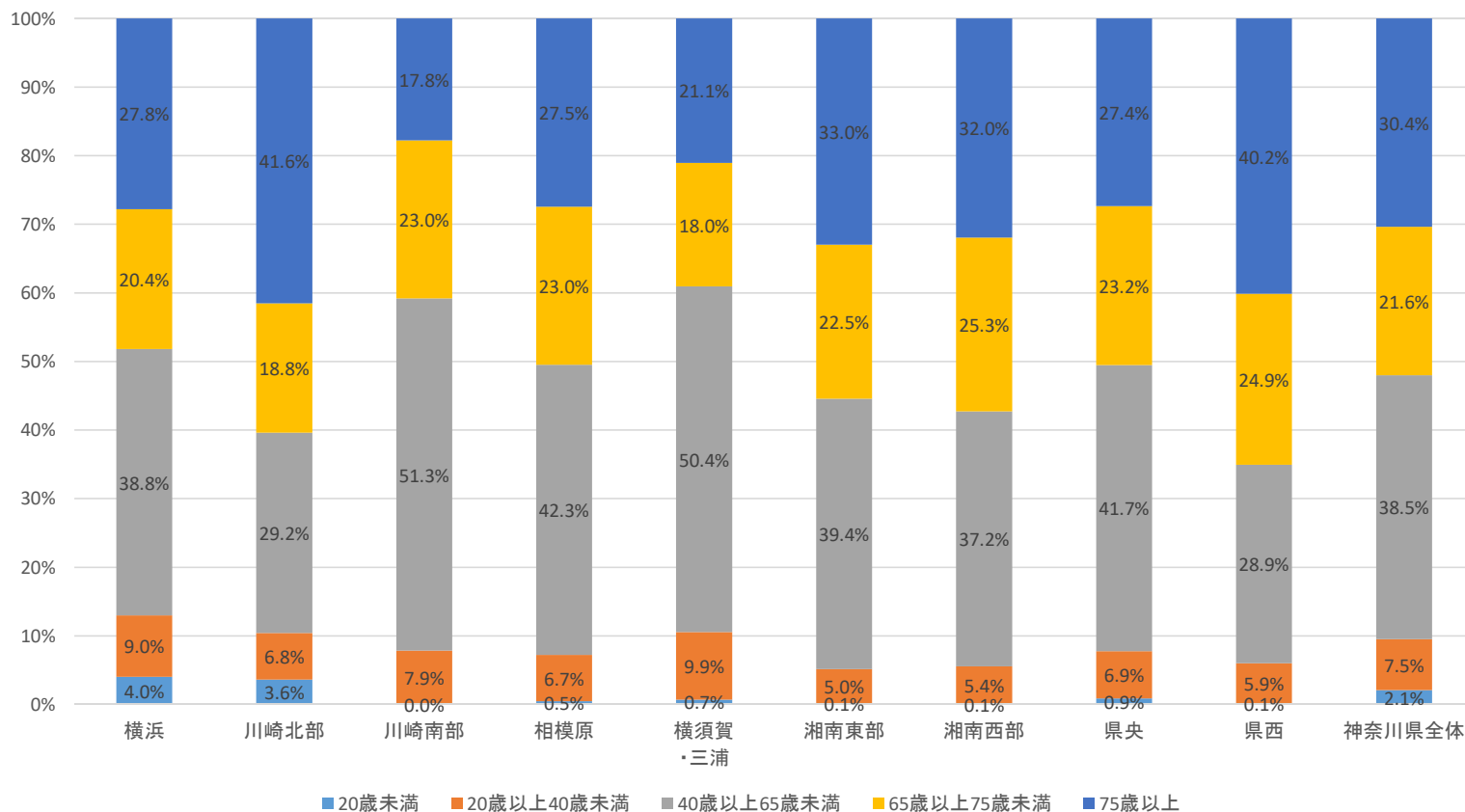


・40歳以上65歳未満が最大の医療圏域が多いが、川崎北部、県西では75歳以上が最多となっている。

・川崎南部では、75歳以上の割合が40歳以上65歳未満、65歳以上75歳未満を下回っている。

5 2次医療圏における患者の詳細分析

(3) 入院患者の年代別割合の状況



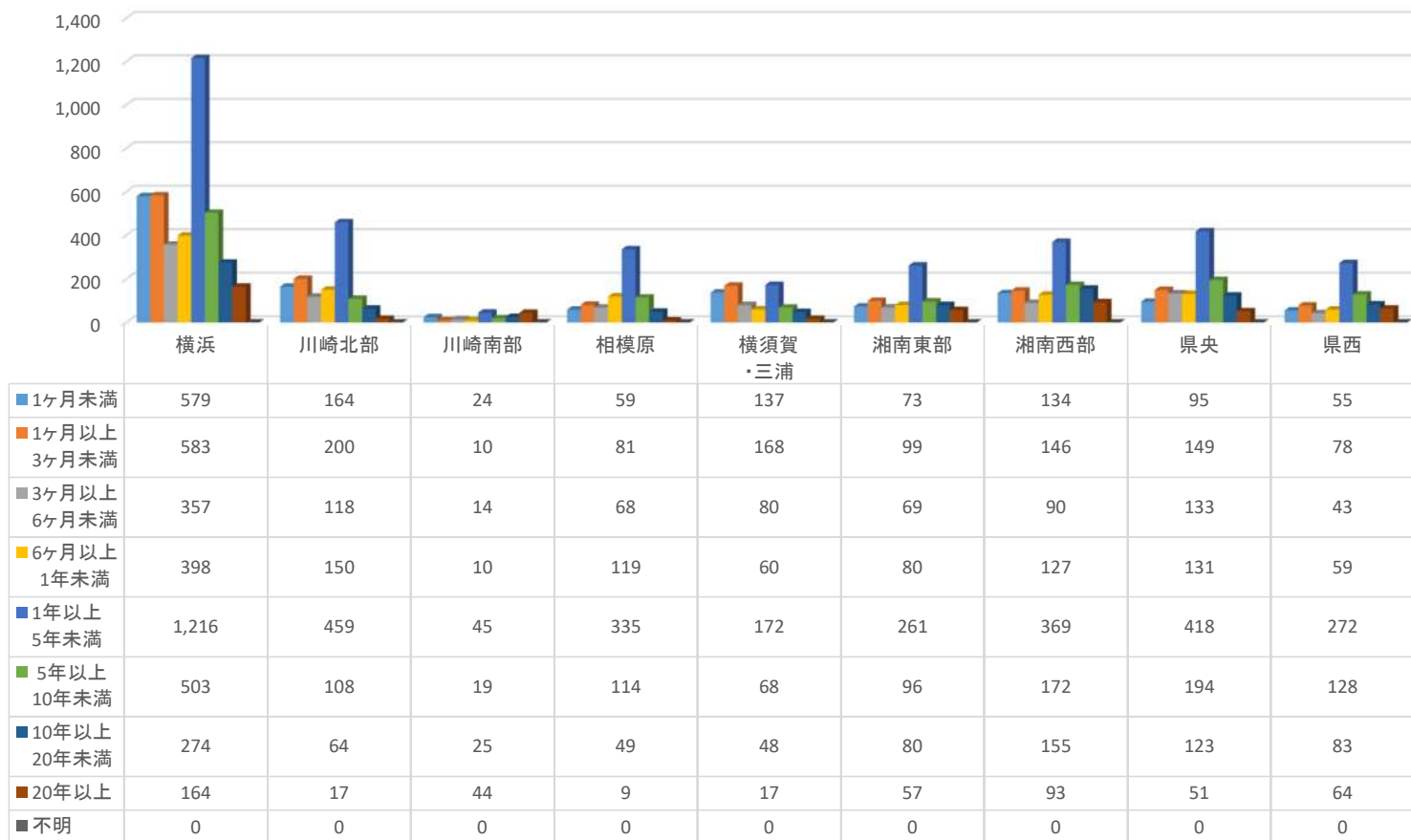
・年代別の状況を比較すると、20歳未満～40歳未満の層の患者は少なく、40歳以上の年代の患者数が多いことが伺える。

・横浜、川崎南部、横須賀・三浦では、65歳未満の患者が5割を超えている。

・川崎北部、県西では4割の患者が75歳以上となっている。

5 2次医療圏における患者の詳細分析

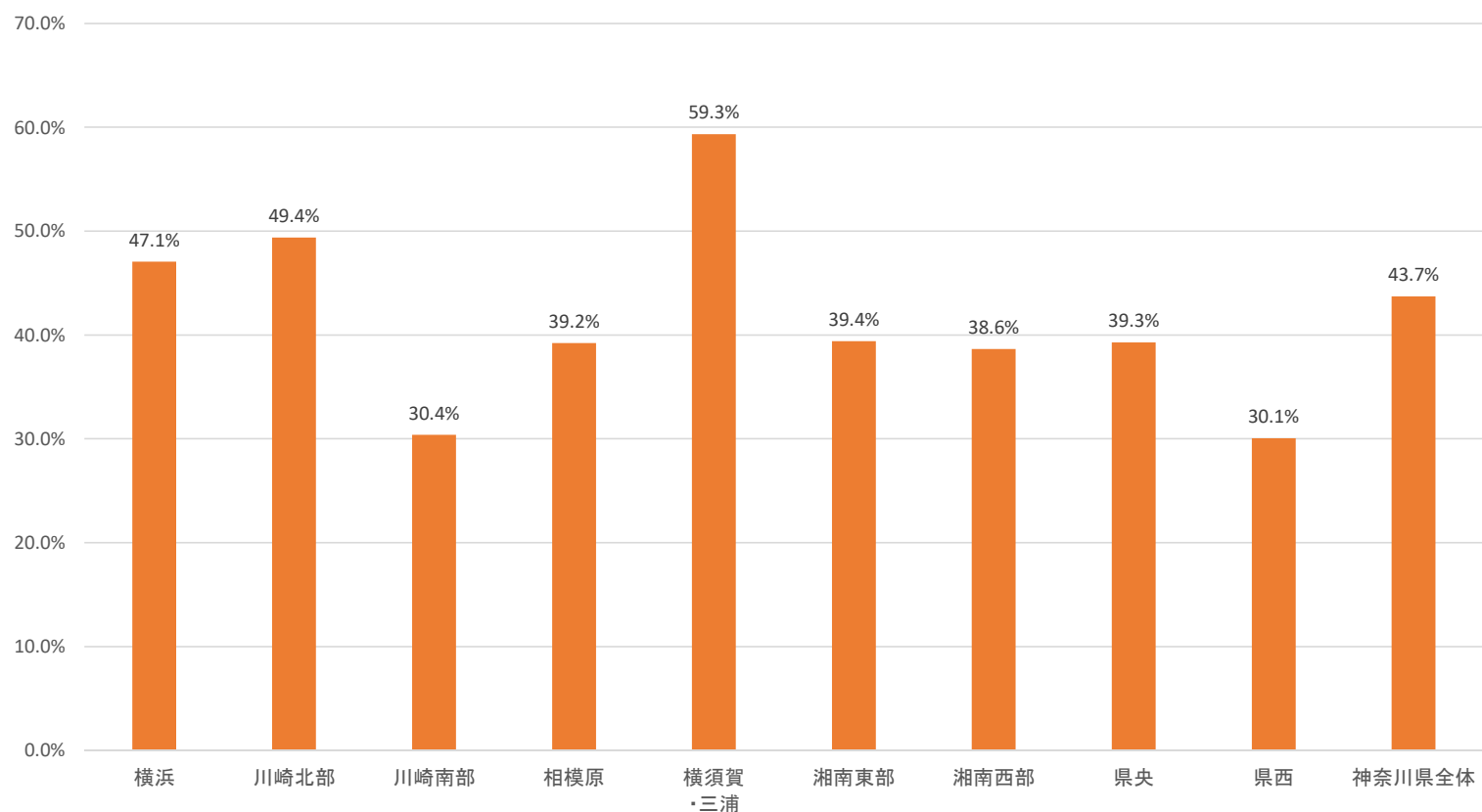
(4) 入院期間別の状況



・患者の入院期間別に見ると、各医療圏とも1年以上5年未満が最多となっている。

5 2次医療圏における患者の詳細分析

(5) 1年未満の入院患者の割合



・入院期間が1年未満の患者の割合は、横須賀・三浦が6割近くとなっている。

・川崎南部及び県西は1年未満の患者の割合は3割となっている。